

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	90	事務事業名 (中事業名)		西尾市美術展等開催事業 ( )					
予算科目	10	05	05	大事業	05	中事業	00	担当課名	文化振興課
総合計画施策コード	341		事務開始年度		昭和47年		備考		
根拠法令等	-						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	文化・芸術を通して、住みよい地域づくりと地域文化の進行を図り、市民が様々な角度から、文化芸術に親しむことができる機会の提供を行うため。
事業の対象 (誰(何)のために)	市民
事業の概要 (具体的に何を)	西尾文化協会、一色地域文化協会、幡豆地域文化協会への委託業務。 ①西尾市美術展 市内外から作品を募集し、展示するとともに優秀作品を表彰する。 ②いっしき文化のまつり 作品展や芸能発表を行う。 ③はづ文化祭・芸能祭 公民館フェスティバルと共催し、作品展や芸能発表を行う。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	2,473,000円	2,353,250円	2,359,000円	
事業にかかる人工	0.10人	0.10人	0.10人	
事業にかかる人件費②	710,461円	716,741円	723,422円	
総事業費③(①+②)	3,183,461円	3,069,991円	3,082,422円	
総財源業内費 ③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	3,183,461円	3,069,991円	3,082,422円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	-113,470円	H30 総事業費③の対前年度比率	-3.56%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	その他委託料	第59回西尾市美術展委託料		1,103,900円
	その他委託料	第49回いっしき文化のまつり		458,850円
	その他委託料	第39回はづ文化祭・芸能祭		758,100円

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	美術展等来場者数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	8,000	人	8,500	人	9,000	人
	実績値	7,880	人	9,039	人	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	美術展等作品数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	2,000	作品	2,100	作品	2,200	作品
	実績値④	2,144	作品	2,446	作品	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		1,485円		1,255円		*****	

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	全て委託している	委託の内容	各地域での文化芸術活動
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	令和4年
事業の終了時期が未定の場合の理由	4つの文化協会の合併。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価項目		
	評価	評価	評価	評価	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	○	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	○
	国・県・市・民間との役割は適切か	○		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	○		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか	○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか	◎	公平性	受益者に偏りはないか	○
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	○
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	○		受益者負担の割合は適切か	○
	他市町村と比べて上位に位置しているか	○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	○
評価の総合的なコメント	市民に広く文化芸術に触れる機会の提供ができています。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める			
	(理由)	文化協会の合併までは、現行どおりとするが、合併後には事業の見直しをしていきたい。			
民間委託又は市民協働拡大の方向性	継続的に委託をしていく。				
事業全体の課題	文化協会の会員の高齢化により、会員数の減少に歯止めをかけることができず、維持自体が難しい状況である。				

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	文化芸術事業として文化協会へ委託しているところではなく、補助金になっている自治体が多い。また、文化協会の法人化により自主財源により、事業を行っている。
---------------	---

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	4つの文化協会の合併を推進し、事業の見直しを図りたい。
--------	-----------------------------

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	より多くの市民がさまざまな角度から文化芸術に親しめる機会の提供に努めてください。
----------	--

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	91		事務事業名 (中事業名)	文化財保護管理事業 ( )					
予算科目	10	05	05	大事業	06	中事業	00	担当課名	文化振興課
総合計画施策コード	343 344		事務開始年度		不明		備考		
根拠法令等	文化財保護法、西尾市文化財保護条例						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	西尾市内に所在する指定文化財の保存活用に資するため
事業の対象 (誰(何)のために)	すべての市民
事業の概要 (具体的に何を)	指定文化財の保存活用のため、日常管理業務を行う。また、所有者や管理者に対して支援を行う

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	4,376,116円	4,400,154円	9,593,000円	
事業にかかる人工	0.10人	0.10人	0.30人	
事業にかかる人件費②	710,461円	716,741円	2,170,268円	
総事業費③(①+②)	5,086,577円	5,116,895円	11,763,268円	
総事業費の内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	5,086,577円	5,116,895円	11,738,268円
	その他 資料代	0円	0円	25,000円
H30 総事業費③の対前年度差額	30,318円	H30 総事業費③の対前年度比率	0.60%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要		金額
	文化財保護管理委託料	指定文化財の所有者または管理者に文化財の日常管理を委託する。		2,728,000円

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	文化財の所有者や管理者に保護管理業務を依頼する件数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	227	件	229	件	230	件
	実績値	227	件	229	件	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	新しい文化財指定件数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	1	件	1	件	1	件
	実績値④	0	件	1	件	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度	平成30年度		令和元年度		
		0円	5,116,895円		*****		

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	文化財所有者への管理
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	指定文化財を保存活用をしていくための制度であり事業が終了することはない。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	○
	国・県・市・民間との役割は適切か		○		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	◎
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか		○	公平性	受益者に偏りはないか	○
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	○
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		◎		受益者負担の割合は適切か	○
	他市町村と比べて上位に位置しているか		○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	○
評価の総合的なコメント	継続しての実施することで文化財の保護管理に有益である					
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	文化財の指定、保存、活用は今後も引き続き市で行っていく業務である				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	個別の文化財の保存管理、活用について所有者や管理者と協働して行っていく					
事業全体の課題	指定文化財の所有者や管理者での保存管理について後継者不足や高齢化などで今後の維持管理についての方向性を示していく必要がある					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	文化財の保護管理について業務委託の形で地域や所有者に依頼している
---------------	----------------------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	今後も文化財の保護管理のみならず活用も含め事業を推進していく。
--------	---------------------------------

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	多くの市民が歴史に親しむことができるように史跡説明版を設置するなど、文化財を生かしたまちづくりに努めてください。現在の成果指標は活動指標とされます。成果指標は保存活動を進める中で例えば保存状態が良いものとしてメディアに取り上げられた数とか、文化財の公開につながった数などにしてください。
----------	---

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	92	事務事業名 (中事業名)		文化財調査事業 ( )					
予算科目	10	05	05	大事業	07	中事業	00	担当課名	文化振興課
総合計画施策コード	344		事務開始年度	不明		備考			
根拠法令等	文化財保護法				作成月	令和元年7月			

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	文化財の内容や学術的な意義を明らかにし保存や活用に生かすため。
事業の対象 (誰(何)のために)	すべての市民
事業の概要 (具体的に何を)	埋蔵文化財の測量調査や発掘調査、文化財指定や登録を目指した建造物の調査等を実施している。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	9,204,609円	15,065,663円	12,421,000円	
事業にかかる人工	0.20人	0.30人	0.25人	
事業にかかる人件費②	1,420,922円	2,150,222円	1,808,556円	
総事業費③(①+②)	10,625,531円	17,215,885円	14,229,556円	
総事業費の内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	2,889,000円	4,920,000円	3,166,230円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	7,736,531円	12,295,885円	11,063,326円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	6,590,354円	H30 総事業費③の対前年度比率	62.02%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	埋蔵文化財の測量及び発掘調査面積の増加。			
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	西尾城跡地形測量業務	西尾城跡総合整備計画策定のための基礎資料を得るため	5,940,000円	
	市内遺跡発掘調査業務	開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務	2,243,709円	
	幡頭神社建造物調査報告書印刷製本	県指定文化財の神明社・熊野社の調査報告書の刊行	725,760円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけ成果(成果指標)を得るために、どれだけ活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	文化財調査報告書の刊行					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	1	冊	1	冊	1	冊
	実績値	1	冊	1	冊	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	発掘調査件数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	1	件	4	件	1	件
	実績値④	1	件	4	件	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度	平成30年度	令和元年度			
		10,625,531円	4,303,971円	*****			

●担い手の点検と事業の終期【DO】

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	発掘調査、測量業務
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	文化財の保存活用のための基礎資料を得るための調査は、今後も計画的に実施する必要がある。発掘調査は埋蔵文化財包蔵地内で開発がある場合には事前に実施する必要がある。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		○	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	—
	国・県・市・民間との役割は適切か		○		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか		○	公平性	受益者に偏りはないか	○
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	—
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		○		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか		○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	○
評価の総合的なコメント	埋蔵文化財調査で国庫補助対象に該当する事業については、積極的に国補助金の申請を行っている。					
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	文化財の保存活用のための基礎資料を得るための調査は、今後も計画的に実施する必要がある。				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	必要に応じて大学教員などの専門家に調査を委託している。					
事業全体の課題	開発事業に伴う発掘調査は、工事の実施に伴い緊急な対応が求められる場合が多く、予算や人員のやり繰りが困難な場合がある。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	近隣市でも文化財調査は積極的に実施されている。本市は近隣市と比べて文化財の数が多く、重要なものが多い特徴がある。
---------------	--

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	利用可能な国補助金等の外部資金の活用に努め事業の推進を図る。
--------	--------------------------------

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	市民共有の歴史遺産である文化財を保護するため、今後も未発掘の文化財の掘り起しに努めてください。
----------	---

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	93		事務事業名 (中事業名)	文化財収納施設管理事業 ( )					
予算科目	10	05	06	大事業	06	中事業	00	担当課名	文化振興課
総合計画施策コード	344			事務開始年度	平成26年度			備考	
根拠法令等	-						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	文化財収納施設の維持管理及び収蔵品の整理作業
事業の対象 (誰(何)のために)	すべての市民
事業の概要 (具体的に何を)	文化財収納施設、幡豆文化財収納施設の維持管理及び遺跡出土品を中心とする収蔵資料の整理作業。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	5,515,378円	6,908,885円	7,054,000円	
事業にかかる人工	0.10人	0.10人	0.10人	
事業にかかる人件費②	710,461円	716,741円	723,422円	
総事業費③(①+②)	6,225,839円	7,625,626円	7,777,422円	
総事業費内訳③の	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	6,225,839円	7,625,626円	7,777,422円
	その他	0円	0円	0円
H30 総事業費③の対前年度差額	1,399,787円	H30 総事業費③の対前年度比率	22.48%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)	閉館した幡豆歴史民俗資料館が、平成30年度より幡豆文化財収納施設として本事業に組み込まれたため。			
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	臨時職員賃金	収蔵品整理作業のため	3,529,250円	
	敷地借上料	施設の一部が借地であるための借地料	1,070,953円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけの成果(成果指標)を得るために、どれだけの活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	遺物実測作業実施遺跡数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	5	件	5	件	5	件
	実績値	5	件	5	件	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	新規出土品受け入れ遺跡数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	1	件	4	件	1	件
	実績値④	1	件	4	件	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度	平成30年度		令和元年度		
		6,225,839円	1,906,406円		*****		

事業の委託状況	一部委託している	委託の内容	警備、貯水槽清掃、消防施設点検等
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	施設が存続する限り継続		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価	評価項目		評価
	妥当性	有効性		効率性	公平性	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)		◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	—
	国・県・市・民間との役割は適切か		—		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	△
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか		○		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか		○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか		○	公平性	受益者に偏りはないか	○
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか		○		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	○
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか		○		受益者負担の割合は適切か	—
	他市町村と比べて上位に位置しているか		△		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	○
評価の総合的なコメント	敷地の一部が借地のため年間約100万円の借地料が大きな負担となっている。					
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める				
	(理由)	収蔵文化財を今後も適切に管理していく必要があるため				
民間委託又は市民協働拡大の方向性	民間委託等の拡大の予定はない。					
事業全体の課題	公共施設再配置計画のモデル事業として平成25年度に文化振興課に移されたものの、翌年から各所で雨漏りが発生し施設の利用に支障をきたしている。現在、移転計画が進められている西野町保育園跡地へ施設の移動を検討している。					

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	近隣市では埋蔵文化財センターや歴史博物館の収蔵庫ですべての文化財を収蔵しているところもあるが、本市では岩瀬文庫や資料館で十分な文化財収蔵スペースが確保できないため、今後も別施設に収蔵場所を確保する必要がある。
---------------	--

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	なし
-----------------	----

●改善案【ACTION】

今後の改善策	別の空施設への移転を含め、今後も収蔵場所の確保に努める。
--------	------------------------------

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	多くの市民が歴史に親しむことができるように史跡説明版を設置するなど、文化財を生かしたまちづくりに努めてください。また、成果指標と活動指標の精査をお願いします。
----------	---

# 西尾市事務事業評価シート

事務事業No.	94	事務事業名 (中事業名)	岩瀬文庫運営事業 ( )						
予算科目	10	05	09	大事業	01	中事業	00	担当課名	文化振興課
総合計画施策コード	343.344			事務開始年度	平成15年度			備考	
根拠法令等	博物館法、文化財保護法、文字・活字文化振興法						作成月	令和元年7月	

## 事業の概要

### ●事業の内容【PLAN】

事業の目的 (どうするために)	岩瀬文庫が所蔵する貴重な古典籍や文化財を良好な環境で保存・活用し、登録博物館として適正な運営を行うため。
事業の対象 (誰(何)のために)	日本の書物文化や古典籍、文化財を学び楽しむすべての人のため。
事業の概要 (具体的に何を)	貴重な所蔵資料を保存するため、マイクロフィルム化や修復作業を行う。また所蔵資料の魅力と価値を伝えるため、企画展示や講座、講演会などを催し、研究者ばかりでなく広く一般への普及活動に努める。さらに、資料により広範な利用のためのツールとして蔵書目録(データベース)の完成を目指し、全資料の書誌調査を行う。その他、閲覧や複写、レファレンス、資料解説等の日々の利用に対応する。

### ●事業費の内訳【DO】

項目	平成29年度(決算)	平成30年度(決算)	令和元年度(予算)	
事業費①	26,770,538円	25,525,718円	25,379,000円	
事業にかかる人工	2.80人	2.40人	1.80人	
事業にかかる人件費②	19,892,914円	17,201,779円	13,021,605円	
総事業費③(①+②)	46,663,452円	42,727,497円	38,400,605円	
総事業費の内訳③	使用料・手数料	0円	0円	0円
	国からの支出金	0円	0円	0円
	県からの支出金	0円	0円	0円
	市費	43,250,452円	39,943,497円	36,286,605円
	その他	3,413,000円	2,784,000円	2,114,000円
H30 総事業費③の対前年度差額	-3,935,955円	H30 総事業費③の対前年度比率	-8.43%	
事業費の増減理由 (対前年度比10%超の場合記入)				
事業費の中の 主な支出項目 (H30決算額)	項目	概要	金額	
	印刷製本	企画展の図録・ポスター・ちらし、資料調査報告書、文庫広報誌などの印刷を行う	3,569,451円	
	目録作成(資料調査)	蔵書目録の作成およびデータベース化のため、全資料の書誌調査を行う	2,478,018円	
	マイクロフィルム撮影	原資料の保護および複写サービスに応じるため、全資料のマイクロフィルム化を行う	7,612,894円	

### ●指標の設定【DO】

(事業の実施にあたり、どれだけ成果(成果指標)を得るために、どれだけ活動(活動指標)をするか。)

成果指標	○事業で得たい成果を示すもので、受益者(市民)の観点から捉えた具体的な効果や効用(アウトカム)事業の目的と						
	具体的な指標	入館者数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	30,000	人	31,000	人	32,000	人
	実績値	31,425	人	31,905	人	*****	
活動指標	○事業全体の結果を示すもので、具体的な活動量や活動実績(アウトプット)						
	具体的な指標	企画展示開催日数					
	指標の推移	平成29年度	単位	平成30年度	単位	令和元年度	単位
	目標値	250	日	260	日	270	日
	実績値④	280	日	286	日	*****	
活動一単位当たりのコスト(③÷④)		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
		166,655円		149,397円		*****	

事業の委託状況	委託していない	委託の内容	-
事業の終了時期	未定	事業の終了時期が未定の場合、事業の抜本的な見直し時期	未定
事業の終了時期が未定の場合の理由	市民が110年余にわたり守り伝えてきた貴重な資料を未来永劫守り伝えてゆくことは岩瀬文庫を引き継いだ市の責務であるので、事業が終了することはない。		

評 価

●個別評価【CHECK】 ◎:適正 ○:概ね適正 △:適正ではない -:いずれにも該当しない

評価項目	評価項目		評価項目		
	評価	評価	評価	評価	
妥当性	市が関与することが適切か(委託・民営化は不可能)	◎	効率性	単位コストは、前年を下回っているか	◎
	国・県・市・民間との役割は適切か	◎		事業実績や目的に対して費用がかかりすぎているか	○
	変化する社会情勢の中で、事業の意義は失われていないか	◎		委託等、手段を変更してもコスト削減は期待できないか	○
	事業に対する市民ニーズを把握しているか	○		事務の手段を工夫しても業務時間は短縮できないか	○
有効性	事業の目的は達成できているか	○	公平性	受益者に偏りはないか	○
	事務を継続することで、成果の向上が期待できるか	◎		受益者負担を求めている、また、求めている状況は適切か	○
	事務成果が上位施策の目標達成に貢献しているか	◎		受益者負担の割合は適切か	○
	他市町村と比べて上位に位置しているか	○		サービスの提供方法に公平性を欠いていないか	◎
評価の総合的なコメント	全国でも稀有な古典籍の博物館として知られ、固定ファンも多い。一方で、新規の来館者の拡充にも努めたい。				
事業の方向性	(評価)	1 今後も、ほぼ現行どおり(事業の内容・規模・手法)進める			
	(理由)	取り扱う資料の保存管理に責任を負うべきは市である。また、業務が特殊かつ専門的であるため、共働や委託に任せられる範囲も限定的であるので。			
民間委託又は市民協働拡大の方向性	軽微な作業は市民ボランティアの助勢を頼り、また書誌調査は研究者に委託しているが、業務が特殊かつ専門的であるため、これ以上の共働や委託は望めない。				
事業全体の課題	発足時は3名だった担当職員が現行は2名、うち1名は管理職に昇任したため、職員の負荷が年々増大している。また開館から16年余を経て空調はじめ随所に不具合がある。かけがえのない貴重な資料を守り伝えるため、計画的なメンテナンスと人員の補充を求めたい。				

●近隣の状況【CHECK】

同類事業の近隣市の実施状況	所蔵資料傾向が極めて特殊であるため、類似の施設がなく比較できない。
---------------	-----------------------------------

●参考意見等【CHECK】

市民サービス向上に向けた意見等	全国でも稀有な古典籍の博物館ですので、新規の来館者の拡充に注力するため、対象を明確にした企画展等の開催を望みます。(R1.12 他課職員の意見)
-----------------	--

●改善案【ACTION】

今後の改善策	公立博物館として公平であるように努め、どなたにでも受け入れられやすい企画をと心を砕いてきたつもりであったが、結果として薄味になってしまったかと反省。時には「子ども」とか「女性」など対象を絞り込んだ展示や講座などターゲット層に強く訴求できる企画も考え、新たなファンの取り込みを図りたい。
--------	--

●企画政策課の評価

企画政策課の意見	岩瀬文庫所蔵資料の調査研究成果を広くPRし、企画展や講座などの内容を充実し、わかりやすい公開に努めてください。
----------	---